

## 化学物質と環境に関する政策対話の今後の議題について

政策対話はこれまで計7回開催されており、主要なテーマは下記の2つに分けることができる。

- ▶ 「SAICM 国内実施計画の策定及びその点検」（第1、2、6、7回）
- ▶ 「メンバーから提起があった個別テーマに関する議論」（第3、4、5回）

下表に、これまでの政策対話における議題及びメンバーから提起があった個別テーマを整理したものを示す。

図表 政策対話におけるこれまでの議題とメンバーから提起があった個別テーマについて

開催回	議題	メンバーから提起があった個別テーマ
第1回 (平成24年 3月27日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・化学物質と環境に関する現状と今後の課題について</li> <li>・SAICM国内実施計画の策定について</li> </ul>	① 予防的取組方法等の基本的な考え方 →第3回のテーマとして採用。 ② 高度化するリスク評価とそれを取り巻く課題 →第4回のテーマとして採用。
第2回 (平成24年 8月29日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SAICM国内実施計画(案)について</li> <li>・今後の議論の進め方について</li> <li>・各省庁における最近の取組について</li> </ul>	③ 製品中の化学物質の表示 →⑨とあわせて第5回のテーマとして採用。 ④ 有害化学物質の廃棄処理 ⑤ 諸外国と比較した我が国の化学物質対策全体のあり方 ⑥ 事故時・災害時における対応のあり方 ※上記のほか、第1回政策対話では以下のテーマについても言及があった。 ・法律間の有害性情報の共有のあり方 ・化学物質ごとのリスク管理の連携のあり方(例えば労働安全と環境汚染防止) ・WSSD2020年目標達成状況の評価(到達点) →SAICM国内実施計画の点検により対応。
第3回 (平成24年 12月11日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予防的な取組方法の基本的な考え方について</li> <li>・SAICMに係る国内外の動向について</li> </ul>	—
第4回 (平成26年 1月31日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リスク評価の新たな展開とそれを取り巻く課題について</li> </ul>	⑦ ばく露評価の高度化 ⑧ 未解明の問題への対応 ⑨ 消費者に提供すべき情報や提供方法 →③とあわせて第5回のテーマとして採用 ⑩ 意思決定等への消費者の参加方法
第5回 (平成26年 8月4日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・製品中化学物質に関するリスクコミュニケーションについて</li> <li>・ICCM4に向けた進め方について</li> </ul>	⑪ 消費者への製品中化学物質の情報提供方法 ⑪-1 製品中化学物質の表示(特に物質名)の統一 ⑪-2 製品中化学物質に関する情報提供システムの整備 ⑫ 製品中化学物質に関するリスクコミュニケーションのあり方 ⑫-1 消費者が化学物質に関して相談できる機関や場の整備 ⑫-2 消費者からの相談に答えられる人材の育成 ⑫-3 学校教育の必要性

開催回	議題	メンバーから提起があった個別テーマ
第6回 (平成26年 12月1日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SAICM への取組状況及び今後の進め方について</li> <li>・水銀に関する水俣条約に関する最新の動向の紹介</li> </ul>	<p>※SAICM の点検に関する指摘が主要なテーマであり、個別テーマの要望としては以下のとおり、既に挙げられているテーマのみであった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育の問題や消費者の環境学習 (⑫-2、⑫-3)</li> <li>・消費者製品中化学物質の表示や情報伝達 (③、⑨、⑪)</li> <li>・第三者的な評価機関や消費者に説明をしてくれる機関 (⑫-1)</li> </ul>
第7回 (平成27年 5月21日)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SAICM への取組状況及び今後の進め方について</li> <li>・国際化学物質管理会議第2回公開作業部会 (ICCM/OEWG2) の結果報告</li> <li>・(その他として) 内分泌かく乱作用に関する環境省の検討状況の報告</li> </ul>	<p>※これまでも提起があった、消費者製品中化学物質の表示の統一 (⑪-1)、内分泌かく乱作用の問題 (⑧) 未規制の殺虫剤有効成分 (⑧) の各問題のほか、以下のテーマについて提起があった。</p> <p>⑬ リスクコミュニケーションの内容の評価</p>